

2025年度大学院

「先端医学トピックス」 の開講について

2025 Graduate School of Medicine Trends Topics

開講番号	月/日 Date	曜日	時間 Time	題 目 Title	担当教員名 Lecturer	場所 Place	担当分野 Field of the Topics	備考
25-010	7/2	(水)	18：00 ～ 19：30	FLASH 放射線治療ビームの放射線生物学的および線量学的側面 Radiobiological and dosimetric aspects of FLASH radiotherapy beams	Moshi Geso Associate Professor Health and Biomedical Sciences, RMIT University	対面/オンライン A講義室、オンライン どちらでも受講可	放射線腫瘍学	参加URLは クラスルームに 記載予定。
★事前申込み必須！ 7/7の受講希望者は備考欄Google Formより申込みこと(締切6/30)。申込時に記入したメールアドレスにZoomURLが送付されます。 <u>オンライン参加は「先着80名」、 対面受講は医学部会館 シスメックスホールにて可能。</u>								
25-007	7/7	(月)	13：00 ～	《CMX若手共同研究PJ研究進捗発表会 1》 ①YAPを活性化するSAMD4Bの発見;その機能と抗癌剤開発への応用 Discovery of SAMD4B as a YAP activator; its functions and development into anticancer drugs. ②膵がんの進展におけるRif-Ror1シグナルの機能解析 Functional analysis of Rif-Ror1 signaling in the progression of pancreatic ductal adenocarcinoma.	①大谷 淳二 細胞医科学分野助教 ②紙崎 孝基 消化器内科・分子病態医学部門 特命講師	シスメックスホール &オンライン	幹細胞医学	https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdIS4dMf5-927Tps3nTy39zXbk0LOwShiaoYbJn9lasLvmHA/viewform?usp=sharing&ouid=105549576678583882083
25-008			14：25 ～	《CMX若手共同研究PJ研究進捗発表会 2》 ③麻酔と覚醒の変遷過程における生体マルチセンシング In vivo multi-sensing during the transition between anesthesia and awareness ④がん早期診断を実現する革新的診断システムの開発 Developing innovative diagnostic systems for early cancer diagnosis. ⑤抗SIRPα抗体を用いた神経芽腫・骨肉腫・ユーイング肉腫に対する抗GD2抗体の作用増強法開発 Development of a method to enhance the activity of anti-GD2 antibodies against neuroblastoma, osteosarcoma, and Ewing's sarcoma by anti-SIRPα antibodies.	③中井 信裕 精神医学分野 生物学的精神医学部門 特命講師 ④田所 慶誠 免疫学分野 特命助教 ⑤田村 彰広 小児科学分野 こども急性疾患学部門 特命准教授			
25-009			16：40 ～	《CMX若手共同研究PJ研究進捗発表会2》 (特別講演)インビボ組織免疫学への誘い～免疫応答の時空間組織多様性の解明 Introduction to In Vivo Tissue Immunology: Elucidating the Spatiotemporal Diversity of Immune Responses	石井 優 大阪大学大学院医学系研究科長・ 医学部長, 免疫細胞生物学教授			
25-011	7/7	(月)	17：00 ～ 19：00	オルガネラ間脂質輸送の制御と機能 -Regulation and function of interorganelle lipid transport-	中津 史 新潟大学 医学部医学科脂質生化学 教授	対面/オンライン 第二講堂、オンライン どちらでも受講可	膜生物学	参加URLは クラスルームに 記載予定。
25-012	7/14	(月)	17：00 ～ 19：00	がん転移を制御するシグナル伝達 -Signal transduction regulating cancer metastasis-	山口 英樹 佐々木研究所付属 佐々木研究所 副所長	対面/オンライン 第二講堂、オンライン どちらでも受講可	膜生物学	参加URLは クラスルームに 記載予定。

留意事項

授業への出席および小レポート（200字程度）や口頭試問等により総合的に評価し、講義の内容を十分に理解して知識を取得し、意欲的に講義に参加したと判断できる場合を合格とする。

1単位につき10回の受講を必要とする。（年度をまたぐことができるものとする。）

レポート等の提出がない場合は、出席とみなしません。

◆重複履修を可能とする。但し同日の時間が重なるものは除く。